

日付：2013年02月28日 14:21:20

一般診断
現状

耐震診断（一般診断法）

建物名

1. 総合評価

2. 上部構造評点

3. 壁の耐力明細表

~~4. 柱保有耐力明細表~~ (伝統的構法のみ)

5. 耐力要素の配置等による低減係数

6. 劣化度による低減係数 算定表

一般診断平面図

壁材種表示平面図

立面図

NPO法人耐震マイスター倶楽部 正会員

注意事項

- ホームズ君「耐震診断Pro」は、財団法人日本建築防災協会の木造住宅耐震診断プログラム評価制度において、『木造住宅の耐震診断と補強方法』の“一般診断法”および“精密診断法1”に準拠しているとして、評価書（評価番号：P評価2-改1-W）の交付を受けました。
なお、ホームズ君「耐震診断Pro」の全機能がプログラム評価の対象ではありませんのでご注意ください。本プログラム評価の適用範囲は下記の通りとなっております。

▼評価対象

「一般診断法（精算/略算）」、「精密診断法1（精算/略算）」

▼評価対象外

「地震被害想定3次元CG」、「限界耐力計算」、「柱頭柱脚金物算定」、
「基準法壁量計算」、「壁の配置」、「梁・桁断面算定」、「プレゼンボード」

【プログラム評価とは】

「木造住宅耐震診断プログラム評価」とは、財団法人日本建築防災協会が実施している制度です。

木造住宅の耐震診断において、基準として広く用いられている『木造住宅の耐震診断と補強方法』が2004年7月に改訂され、診断方法が精緻化されたこともあり、診断プログラムソフトを用いられることが多くなったことを受け、本制度が創設されました。

評価にあたっては、学識経験者・技術者で構成する「木造住宅耐震診断プログラム評価委員会」（委員長 坂本功 東京大学名誉教授）が設置され、耐震診断基準書の解釈やプログラムでの計算処理が正確に行われているか、販売体制、保守サポート体制など、製品のご提供に関しても、詳細な審査が行われました。

- ・ 本ソフトウェアは、国土交通省住宅局建築指導課監修、（財）日本建築防災協会発行の2004年改訂版「木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法に準拠した結果を出力しています。
- ・ 2004年改訂版「木造住宅の耐震診断と補強方法」の一般診断法は、耐震補強等の必要性の判定を目的としています。一般診断法において、補強が必要と判定された場合は、さらに精密診断法による判定を実施し、補強の要否の最終的な診断を行って下さい。
- ・ 2004年改訂版「木造住宅の耐震診断と補強方法」では診断の対象とする地震を、建物がその耐用年数の間にごくまれに遭遇するかもしれない大地震動としています。
- ・ 地震被害想定3次元CGは、“一般診断法”による評点を用いて住宅の耐震性能を表現しておりますが、実際の地震に遭遇したときの倒壊状況を正確に表現しているわけではありません。
このため、地震被害想定3次元CGでは結果が過大に表現される場合があります。
- ・ 実際の倒壊の可能性及び、補強の必要性の判断については、この結果のみで判断するのではなく、“精密診断法”の診断結果を元に、総合的な判断を行なうことを推奨します。
- ・ 本ソフトウェアの診断結果に問題がなくても、地震による被害を受けないことを保証するものではありません。

一般診断
現状

1. 総合評価

日付：2013年02月28日 14:21:20

建物コード：130103

建物概要

調査日	2013年01月15日	診断者	高原 慎司		
建物名称		備考			
建築地		多雪地域区分	一般	係数	0
建物用途	住宅	地震地域係数Z	0.9	係数	0.9
竣工年月	1977年11月(昭和52年)	2階短辺長さ	6m以上		
築年数	築10年以上	1階短辺長さ	6m以上		
構法	在来軸組構法	混構造割増	木造	係数	1.0
建物重量	重い建物	軟弱地盤割増	軟弱地盤ではない。		係数 1.0
外壁材種	珪藻土塗壁	地盤種別	Ⅱ 第2種地盤		
外壁材壁強さ倍率	1.6 (kN/m)	基礎形式	Ⅱ ひび割れのある無筋コンクリート基礎		
2階床面積	49.69㎡ (15.03坪)	柱頭柱脚接合部	Ⅲ、Ⅳ 3 kN未満		
1階床面積	53.26㎡ (16.11坪)	木製筋かい接合部	Ⅲ 釘打ち(2-N75程度)以下		
2階階高	2800mm	床仕様	Ⅱ 火打ち+荒板		
1階階高	2800mm	必要耐力計算方法	精算法(各階の床面積比を考慮した方法)		
		配置低減計算方法	4分割法を使用した方法		

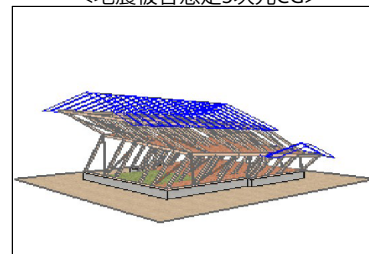
地盤・地形・基礎形式

地盤	対策	選択	注意事項
よい			
普通		●	
悪い (埋立地、盛り土、軟弱地盤)	表層の地盤改良を行なっている 杭基礎である 特別な対策を行っていない		
地形	対策	選択	注意事項
平坦・普通		●	
がけ地・急斜面	コンクリート擁壁 石積 特別な対策を行っていない		
基礎形式	対策	選択	注意事項
鉄筋コンクリート基礎	健全 ひび割れが生じている		・基礎クラックがあります。 ・アンカーボルト、引き抜き金物が十分な性能を発揮できない場合があります。補修が必要です。
無筋コンクリート基礎	健全 ひび割れが生じている	●	・地震時に、基礎が曲げ破壊し上部構造の性能を十分に発揮できない可能性があります。
玉石基礎	足固めあり 足固めなし		鉄筋コンクリート基礎などを沿えて基礎を補強する必要があります。
その他(ブロック基礎等)			

上部構造評点 = 保有耐力 (Pd) / 必要耐力 (Qr)

階	方向	保有耐力 Pd (kN)	必要耐力 Qr (kN)	評点 Pd/Qr	グラフ
					0.7 1.0 1.5
2	X	14.82	23.71	0.62	
	Y	14.51		0.61	
1	X	23.30	42.67	0.54	
	Y	28.00		0.65	

<地震被害想定3次元CG>



総合評価 (建築基準法の想定する大地震動での倒壊の可能性)

上部構造評点 のうち最小の値	評点	判定
0.54	1.5以上	◎倒壊しない
	1.0以上～1.5未満	○一応倒壊しない
	0.7以上～1.0未満	△倒壊する可能性がある
	0.7未満	×倒壊する可能性が高い

<その他注意事項>

1階筋違調査に関して目視できませんでした。確認申請図面を基に入力計算しています

一般診断 現状

2. 上部構造評点

日付：2013年02月28日 14:21:20

建物コード：130103

上部構造評点 = 保有耐力 (Pd) / 必要耐力 (Qr)

階	方向	強さ P (kN)	配置 低減係数 E	劣化度 低減係数 D	保有耐力 Pd =P*E*D (kN)	必要耐力 Qr (kN)	評点 Pd/Qr	グラフ	判定
								0.7 1.0 1.5	
2	X	21.18	1.00	0.70	14.82	23.71	0.62		× 倒壊する可能性が高い
	Y	20.73	1.00		14.51		0.61		× 倒壊する可能性が高い
1	X	33.29	1.00		23.30	42.67	0.54		× 倒壊する可能性が高い
	Y	40.01	1.00		28.00		0.65		× 倒壊する可能性が高い

必要耐力 (Qr)

(精算法)

階	① 床面積 (㎡)	② 床面積あたり 必要耐力 (kN/㎡)	③ 積雪用 必要耐力	④ 地震地域 係数 Z	⑤ 軟弱地盤 割増	⑥ 形状 割増	⑦ 混構造 割増	必要耐力 Qr (kN)
2	49.69	0.53	0.00	0.90	1.00	1.00	1.00	23.71
1	53.26	0.89				1.00		42.67

- ①【床面積】 (㎡)
 ②【床面積あたり必要耐力】 (kN/㎡)・・・建物の階数別 建物の重さ別 (軽い建物、重い建物、非常に重い建物)
 ③【積雪用必要耐力】 多雪区域では、積雪深により、積雪1mのとき0.26(kN/㎡)、積雪2mのとき0.52(kN/㎡)を加算する。
 ④【地震地域係数Z】 令第88条に規定する地震地域係数(1.0,0.9,0.8,0.7より選択)多くの地域が1.0
 ⑤【軟弱地盤割増】 地盤が著しく軟弱と思われる敷地の場合は、【必要耐力】を1.5倍する。
 ⑥【形状割増】 いずれかの階の短辺の長さが6.0m未満の場合に、その階を除く、下の階の必要耐力を割増する。
 ⑦【混構造割増】 2階建てにおいて、1階部分が鉄骨造または鉄筋コンクリート造の場合は、【必要耐力】を1.2倍する。

保有耐力 (Pd) = 強さ(P) × 配置(E) × 劣化度(D)

強さ (P)

階	方向	壁の耐力 Pw		その他の耐震要素の耐力 Pe					壁の強さ P P=Pw+Pe
				在来軸組構法、枠組壁工法			伝統的構法		
				必要耐力Qr	係数	Pe=Qr*係数			
2	X	15.26	+	23.71	0.25	5.92	-	=	21.18
	Y	14.81					-		20.73
1	X	22.63		42.67	0.25	10.66	-		33.29
	Y	29.35					-	40.01	

壁の耐力Pw 無開口壁の耐力 「壁強さ倍率合計C」「壁の長さL」「接合部による低減係数f」の積の総和
 ...詳細は、「3. 壁の耐力Pw明細表」参照のこと

$$Pw = \sum (C * L * f)$$

C：壁強さ倍率合計(kN/m)

間仕切壁、外壁の仕様別(下地材、筋かい、面材等)の壁強さ倍率。筋かい・壁下地材両面の値の和とする。

いずれかの面の壁仕様が不明(耐力有)の場合、Cは合計と1.96(kN/m)のうち高い方として計算。

L：壁の長さ(m) 無開口壁の長さのみ。筋かいにおいては、90cm以上を有効とする。面材においては、60cm以上を有効とする。

f：柱接合部による耐力低減係数(1.0~0.2)

壁端柱の柱頭・柱脚の種類により低減する。(但し、壁強さ倍率、基礎の種類別)

接合部Ⅰ・・・平12建1460号に適合する仕様 接合部Ⅱ・・・羽子板ボルト、山形プレートVP、かど金物

接合部Ⅲ・・・ほぞ差し、釘打ち、かすがい等(両脇に通し柱) 接合部Ⅳ・・・ほぞ差し、釘打ち、かすがい等

基礎仕様による低減 (上記に含む) (基礎Ⅰ・・・鉄筋布基礎、ベタ基礎 基礎Ⅱ・・・健全でない基礎 基礎Ⅲ・・・その他)

Peその他の耐震要素の耐力

在来軸組構法(方法1)の場合：垂壁、腰壁、フレーム効果を考慮し【必要耐力Qr】の25%とする。

伝統構法(方法2)の場合：独立柱1本毎に耐力を算定。柱小径、垂壁スパン、垂壁厚さにより耐力定義。

...詳細は、「4. 柱保有耐力Pw」を参照のこと

配置 (E)

耐力要素の配置等による低減係数...詳細は、「5. 耐力要素の配置等による低減係数E」を参照のこと

平面四分割法により配置のバランスを算定し、状況により低減する。床仕様により、さらに低減される場合あり。

通常値 1.0 配置が不適切な場合 0.3~0.8

劣化度 (D)

劣化度による低減係数...詳細は、「6. 劣化度による低減係数D」を参照のこと

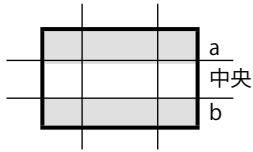
劣化の状況により保有耐力を低減する。劣化無し：1.0 劣化あり：1.0~0.7 0.7未満となった場合は、0.7とする。

一般診断 現状

3. 壁の耐力Pw 明細表 (1階X方向)

日付: 2013年02月28日 14:21:20

建物コード: 130103



位置	柱1	柱2	壁の仕様								壁強さ 倍率 合計 (kN/m) C	壁の 長さ (m) L	基礎 形式	接合 部仕 様	接合 低減 係数 f	耐力 (kN) Pwi
			壁面1	壁強さ 倍率	軸組	壁強さ 倍率	土塗り壁	壁強さ 倍率	壁面2	壁強さ 倍率						
桁行 (a)	3	4	珞珞塗壁	1.60					耐力無	0.00	1.60	0.91	Ⅱ	Ⅳ	*0.70	1.01
	6	7	珞珞塗壁	1.60	※/ 筋かい(30×90)	1.90			耐力無	0.00	3.50	1.36	Ⅱ	Ⅳ	0.80	3.80
	7	8	珞珞塗壁	1.60	※/ 筋かい(30×90)	1.90			耐力無	0.00	3.50	1.36	Ⅱ	Ⅳ	0.80	3.80
	9	10	耐力無	0.00	※/ 筋かい(30×90)	1.90			石膏ボード (非-大壁)	1.20	3.10	1.82	Ⅱ	Ⅳ	*0.35	1.97
	10	11	耐力無	0.00					石膏ボード (非-大壁)	1.20	1.20	0.91	Ⅱ	Ⅳ	1.00	1.09
	13	14	耐力無	0.00					耐力無	0.00	0.00	0.91	Ⅱ	Ⅳ	1.00	0.00
												桁行(a)耐力 Pwa			11.67	
桁行 (中央)	23	24	石膏ボード (非-大壁)	1.20	※/ 筋かい(30×90)	1.90			耐力無	0.00	3.10	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.80	2.25
	25	26	石膏ボード (非-大壁)	1.20					耐力無	0.00	1.20	0.91	Ⅱ	Ⅳ	1.00	1.09
	27	-	耐力無	0.00					耐力無	0.00	0.00	0.91	Ⅱ	Ⅳ	1.00	0.00
	30	31	耐力無	0.00	※/ 筋かい(30×90)	1.90			珞珞塗壁	1.60	3.50	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.80	2.54
												桁行(中央)耐力 Pwc			5.88	
桁行 (b)	35	36	△耐力無	0.00					△珞珞塗壁	0.00	0.00	0.45	Ⅱ	Ⅳ	1.00	0.00
	37	38	耐力無	0.00	※/ 筋かい(30×90)	1.90			珞珞塗壁	1.60	3.50	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.80	2.54
	39	40	耐力無	0.00	※/ 筋かい(30×90)	1.90			珞珞塗壁	1.60	3.50	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.80	2.54
												桁行(b)耐力 Pwb			5.08	

耐力
壁の長さ
 $Pwi = C \times L \times f$
L : 無開口壁のみ
壁強さ倍率合計 C = 壁面1倍率+軸組倍率+土塗り壁倍率+壁面2倍率
接合低減係数 f : 基礎形式と接合部仕様、壁強さ倍率合計により決まります

壁の仕様が網掛けで塗られている材種は壁材種設定により入力者が任意に追加した材種

壁の仕様が太線で囲まれている材種は補強計画で追加、変更された材種

壁の仕様に※が付いている面は大壁、胴縁下地の面 #が付いている面は釘による補正がかかっている面

壁の仕様に△が付いている面、土塗壁、筋かい(それぞれ長さ60cm未満の面、土塗壁および長さ90cm未満の筋かい (壁強さ倍率は0となる))

壁の仕様に※が付いている軸組は接合部金物が不十分な木製筋かい

壁の仕様に/が付いている軸組はシングルの筋かい、Xが付いている軸組はダブルの筋かい

壁の仕様の中の「非」は非耐力壁仕様

接合低減係数に*が付いている壁は、直上に他階が乗っていないので最上階用の接合低減係数が使用されている壁

壁端柱の柱頭・柱脚接合部の種類による耐力低減係数 2階建ての1階、3階建ての1・2階の場合

壁強さ倍率C		2.5(kN/m)未満			2.5~4.0			4.0~6.0			6.0以上		
柱頭柱脚 接合部	基礎形式	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
	I	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.8	1.0	0.85	0.7	1.0	0.8	0.6
	II	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.8	0.9	0.8	0.7	0.8	0.7	0.6
	III	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6
	IV	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6

1階X方向合計 Pw	22.63
------------	-------

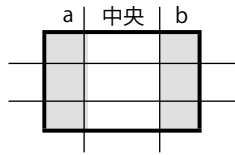
$Pw = Pwa + Pwb + Pwc$

一般診断 現状

3. 壁の耐力Pw 明細表 (1階Y方向)

日付: 2013年02月28日 14:21:20

建物コード: 130103



位置	柱1	柱2	壁の仕様								壁強さ 倍率 合計 (kN/m) C	壁の 長さ (m) L	基礎 形式	接合 部仕 様	接合 低減 係数 f	耐力 (kN) Pwi
			壁面1	壁強さ 倍率	軸組	壁強さ 倍率	土塗り壁	壁強さ 倍率	壁面2	壁強さ 倍率						
梁間 (a)	1	9	珞珞塗壁	1.60	※/ 筋かい(30×90)	1.90			耐力無	0.00	3.50	1.21	Ⅱ	Ⅳ	*0.35	1.48
	19	23	珞珞塗壁	1.60					石膏ボード (非-大壁)	1.20	2.80	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.80	2.03
	33	37	珞珞塗壁	1.60	※/ 筋かい(30×90)	1.90			耐力無	0.00	3.50	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.80	2.54
	-	2	△耐力無	0.00					△耐力無	0.00	0.00	0.30	Ⅱ	Ⅳ	*0.70	0.00
															梁間(a)耐力 Pwa	6.05
梁間 (中央)	4	5	耐力無	0.00					△珞珞塗壁	0.00	0.00	0.30	Ⅱ	Ⅳ	*0.70	0.00
	5	12	耐力無	0.00	※/ 筋かい(30×90)	1.90			耐力無	0.00	1.90	0.91	Ⅱ	Ⅳ	1.00	1.72
	20	26	石膏ボード (非-大壁)	1.20	※/ 筋かい(30×90)	1.90			耐力無	0.00	3.10	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.80	2.25
	29	34	耐力無	0.00					耐力無	0.00	0.00	0.91	Ⅱ	Ⅳ	1.00	0.00
	34	40	耐力無	0.00					珞珞塗壁	1.60	1.60	0.91	Ⅱ	Ⅳ	1.00	1.45
	17	21	耐力無	0.00					耐力無	0.00	0.00	0.91	Ⅱ	Ⅳ	1.00	0.00
	6	14	耐力無	0.00					耐力無	0.00	0.00	0.91	Ⅱ	Ⅳ	1.00	0.00
	14	22	耐力無	0.00					耐力無	0.00	0.00	1.82	Ⅱ	Ⅳ	1.00	0.00
	30	36	耐力無	0.00	※/ 筋かい(30×90)	1.90			珞珞塗壁	1.60	3.50	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.80	2.54
	36	41	珞珞塗壁	1.60					珞珞塗壁	1.60	3.20	0.91	Ⅱ	Ⅳ	0.80	2.32
															梁間(中央)耐力 Pwc	10.28
梁間 (b)	7	15	耐力無	0.00					耐力無	0.00	0.00	0.91	Ⅱ	Ⅳ	1.00	0.00
	8	16	耐力無	0.00	※/ 筋かい(30×90)	1.90			珞珞塗壁	1.60	3.50	0.91	Ⅱ	Ⅲ	0.80	2.54
	16	18	耐力無	0.00					珞珞塗壁	1.60	1.60	0.91	Ⅱ	Ⅲ	1.00	1.45
	28	32	耐力無	0.00	※/ 筋かい(30×90)	1.90			珞珞塗壁	1.60	3.50	0.91	Ⅱ	Ⅲ	0.80	2.54
	32	42	珞珞塗壁	1.60	※/ 筋かい(30×90)	1.90			珞珞塗壁	1.60	5.10	1.82	Ⅱ	Ⅲ	0.70	6.49
															梁間(b)耐力 Pwb	13.02

耐力 壁の長さ $Pwi = C \times L \times f$
 L : 無開口壁のみ
 壁強さ倍率合計 C = 壁面1倍率 + 軸組倍率 + 土塗り壁倍率 + 壁面2倍率
 接合低減係数 f : 基礎形式と接合部仕様、壁強さ倍率合計により決まります

壁の仕様が網掛けで塗られている材種は壁材種設定により入力者が任意に追加した材種

壁の仕様が太線で囲まれている材種は補強計画で追加、変更された材種

壁の仕様に※が付いている面は大壁、胴縁下地の面 #が付いている面は釘による補正がかかっている面

壁の仕様に△が付いている面、土塗り壁、筋かい(それぞれ長さ60cm未満の面、土塗り壁および長さ90cm未満の筋かい (壁強さ倍率は0となる))

壁の仕様に※が付いている軸組は接合部金物が不十分な木製筋かい

壁の仕様に/が付いている軸組はシングルの筋かい、Xが付いている軸組はダブルの筋かい

壁の仕様の中の「非」は非耐力壁仕様

接合低減係数に※が付いている壁は、直上に他階が乗っていないので最上階用の接合低減係数が使用されている壁

壁端柱の柱頭・柱脚接合部の種類による耐力低減係数 2階建ての1階、3階建ての1・2階の場合

壁強さ倍率C		2.5(kN/m)未満			2.5~4.0			4.0~6.0			6.0以上		
基礎形式		I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
柱頭柱脚 接合部	I	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.8	1.0	0.85	0.7	1.0	0.8	0.6
	II	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.8	0.9	0.8	0.7	0.8	0.7	0.6
	III	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6
	IV	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6

1階Y方向合計 Pw	29.35
------------	-------

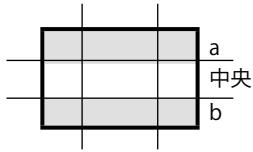
$Pw = Pwa + Pwb + Pwc$

一般診断 現状

3. 壁の耐力Pw 明細表 (2階X方向)

日付: 2013年02月28日 14:21:20

建物コード: 130103



位置	柱1	柱2	壁の仕様								壁強さ 倍率 合計 (kN/m) C	壁の 長さ (m) L	基礎 形式	接合 部仕 様	接合 低減 係数 f	耐力 (kN) Pwi
			壁面1	壁強さ 倍率	軸組	壁強さ 倍率	土塗り壁	壁強さ 倍率	壁面2	壁強さ 倍率						
桁行 (a)	1	2	珪藻土塗壁	1.60	※/ 筋かい(30×90)	1.90			石膏ボード (非-大壁)	1.20	4.70	0.91	I	IV	0.25	1.06
	2	3	珪藻土塗壁	1.60					石膏ボード (非-大壁)	1.20	2.80	0.91	I	IV	0.35	0.89
	3	4	珪藻土塗壁	1.60					石膏ボード (非-大壁)	1.20	2.80	0.91	I	IV	0.35	0.89
	6	7	珪藻土塗壁	1.60	※/ 筋かい(30×90)	1.90			耐力無	0.00	3.50	0.91	I	IV	0.35	1.11
												桁行(a)耐力 Pwa			3.95	
中央 (中央)	14	15	耐力無	0.00					石膏ボード (非-大壁)	1.20	1.20	0.91	I	IV	0.70	0.76
	16	17	珪藻土塗壁	1.60					耐力無	0.00	1.60	0.91	I	IV	0.70	1.01
	18	19	耐力無	0.00					耐力無	0.00	0.00	0.91	I	IV	0.70	0.00
	22	23	石膏ボード (非-大壁)	1.20	※/ 筋かい(30×90)	1.90			耐力無	0.00	3.10	0.91	I	IV	0.35	0.98
	24	25	石膏ボード (非-大壁)	1.20					耐力無	0.00	1.20	0.91	I	IV	0.70	0.76
	25	26	耐力無	0.00					石膏ボード (非-大壁)	1.20	1.20	0.91	I	IV	0.70	0.76
	27	28	耐力無	0.00	※/ 筋かい(30×90)	1.90			石膏ボード (非-大壁)	1.20	3.10	0.91	I	IV	0.35	0.98
												桁行(中央)耐力 Pwc			5.25	
桁行 (b)	31	32	耐力無	0.00					石膏ボード (非-大壁)	1.20	1.20	0.91	I	IV	0.70	0.76
	33	34	耐力無	0.00	※/ 筋かい(30×90)	1.90			珪藻土塗壁	1.60	3.50	0.91	I	IV	0.35	1.11
	35	36	耐力無	0.00					珪藻土塗壁	1.60	1.60	0.91	I	IV	0.70	1.01
	36	37	石膏ボード (非-大壁)	1.20	※/ 筋かい(30×90)	1.90			珪藻土塗壁	1.60	4.70	0.91	I	IV	0.25	1.06
	37	38	石膏ボード (非-大壁)	1.20	※/ 筋かい(30×90)	1.90			珪藻土塗壁	1.60	4.70	0.91	I	IV	0.25	1.06
	39	40	石膏ボード (非-大壁)	1.20	※/ 筋かい(30×90)	1.90			珪藻土塗壁	1.60	4.70	0.91	I	IV	0.25	1.06
													桁行(b)耐力 Pwb			6.06

耐力 壁の長さ $Pwi = C \times L \times f$
 L : 無開口壁のみ
 壁強さ倍率合計 $C = \text{壁面1倍率} + \text{軸組倍率} + \text{土塗り壁倍率} + \text{壁面2倍率}$
 接合低減係数 f : 基礎形式と接合部仕様、壁強さ倍率合計により決まります

壁の仕様が網掛けで塗られている材種は壁材種設定により入力者が任意に追加した材種

壁の仕様が太線で囲まれている材種は補強計画で追加、変更された材種

壁の仕様に※が付いている面は大壁、胴縁下地の面 #が付いている面は釘による補正がかかっている面

壁の仕様に△が付いている面、土塗壁、筋かい(はそれぞれ長さ60cm未満の面、土塗壁および長さ90cm未満の筋かい (壁強さ倍率は0となる)

壁の仕様に※が付いている軸組は接合部金物が不十分な木製筋かい

壁の仕様に/が付いている軸組はシングルの筋かい、Xが付いている軸組はダブルの筋かい

壁の仕様の中の「非」は非耐力壁仕様

接合低減係数に*が付いている壁は、直上に他階が乗っていないので最上階用の接合低減係数が使用されている壁

壁端柱の柱頭・柱脚接合部の種類による耐力低減係数 最上階の場合

壁強さ倍率C		2.5(kN/m)未満			2.5~4.0			4.0~6.0			6.0以上		
基礎形式		I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
柱頭柱脚 接合部	I	1.0	0.85	0.7	1.0	0.7	0.35	1.0	0.6	0.25	1.0	0.6	0.2
	II	1.0	0.85	0.7	0.8	0.6	0.35	0.65	0.45	0.25	0.5	0.35	0.2
	III	0.7	0.7	0.7	0.6	0.5	0.35	0.45	0.35	0.25	0.35	0.3	0.2
	IV	0.7	0.7	0.7	0.35	0.35	0.35	0.25	0.25	0.25	0.2	0.2	0.2

2階X方向合計 Pw	15.26
------------	-------

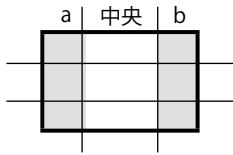
$Pw = Pwa + Pwb + Pwc$

一般診断 現状

3. 壁の耐力Pw 明細表 (2階Y方向)

日付: 2013年02月28日 14:21:20

建物コード: 130103



位置	柱1	柱2	壁の仕様								壁強さ 倍率 合計 (kN/m) C	壁の 長さ (m) L	基礎 形式	接合 部仕 様	接合 低減 係数 f	耐力 (kN) Pwi
			壁面1	壁強さ 倍率	軸組	壁強さ 倍率	土塗り壁	壁強さ 倍率	壁面2	壁強さ 倍率						
(a)	16	21	モルタル塗壁	1.60	※/ 筋かい(30×90)	1.90			耐力無	0.00	3.50	0.91	I	IV	0.35	1.11
	21	29	モルタル塗壁	1.60					耐力無	0.00	1.60	0.91	I	IV	0.70	1.01
	1	8	モルタル塗壁	1.60	※/ 筋かい(30×90)	1.90			石膏ボード(非-大壁)	1.20	4.70	0.91	I	IV	0.25	1.06
	17	22	耐力無	0.00	※/ 筋かい(30×90)	1.90			石膏ボード(非-大壁)	1.20	3.10	0.91	I	IV	0.35	0.98
												梁間(a)耐力 Pwa			4.16	
(中央)	3	9	石膏ボード(非-大壁)	1.20					石膏ボード(非-大壁)	1.20	2.40	0.91	I	IV	0.70	1.52
	10	14	石膏ボード(非-大壁)	1.20					耐力無	0.00	1.20	1.36	I	IV	0.70	1.14
	11	15	耐力無	0.00					耐力無	0.00	0.00	1.36	I	IV	0.70	0.00
	15	18	石膏ボード(非-大壁)	1.20					耐力無	0.00	1.20	0.45	I	IV	0.70	0.37
	18	25	石膏ボード(非-大壁)	1.20					耐力無	0.00	1.20	0.91	I	IV	0.70	0.76
	25	32	耐力無	0.00					石膏ボード(非-大壁)	1.20	1.20	1.82	I	IV	0.70	1.52
	13	19	耐力無	0.00					耐力無	0.00	0.00	0.91	I	IV	0.70	0.00
												梁間(中央)耐力 Pwc			5.31	
(b)	7	12	耐力無	0.00	※/ 筋かい(30×90)	1.90			モルタル塗壁	1.60	3.50	0.91	I	III	0.60	1.91
	20	28	耐力無	0.00	※/ 筋かい(30×90)	1.90			モルタル塗壁	1.60	3.50	0.91	I	III	0.60	1.91
	28	30	石膏ボード(非-大壁)	1.20					モルタル塗壁	1.60	2.80	0.91	I	III	0.60	1.52
												梁間(b)耐力 Pwb			5.34	

耐力
壁の長さ $Pwi = C \times L \times f$
L : 無開口壁のみ
壁強さ倍率合計 C = 壁面1 倍率 + 軸組倍率 + 土塗り壁倍率 + 壁面2 倍率
接合低減係数 f : 基礎形式と接合部仕様、壁強さ倍率合計により決まります

壁の仕様が網掛けで塗られている材種は壁材種設定により入力者が任意に追加した材種

壁の仕様が太線で囲まれている材種は補強計画で追加、変更された材種

壁の仕様に※が付いている面は大壁、胴縁下地の面 #が付いている面は釘による補正がかかっている面

壁の仕様に△が付いている面、土塗壁、筋かい(はそれぞれ長さ60cm未満の面、土塗壁および長さ90cm未満の筋かい (壁強さ倍率は0となる)

壁の仕様に※が付いている軸組は接合部金物が不十分な木製筋かい

壁の仕様に/が付いている軸組はシングルの筋かい、Xが付いている軸組はダブルの筋かい

壁の仕様の中の「非」は非耐力壁仕様

接合低減係数に*が付いている壁は、直上に他階が乗っていないので最上階用の接合低減係数が使用されている壁

壁端柱の柱頭・柱脚接合部の種類による耐力低減係数 最上階の場合

壁強さ倍率 C		2.5(kN/m)未満			2.5~4.0			4.0~6.0			6.0以上		
基礎形式		I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
柱頭柱脚 接合部	I	1.0	0.85	0.7	1.0	0.7	0.35	1.0	0.6	0.25	1.0	0.6	0.2
	II	1.0	0.85	0.7	0.8	0.6	0.35	0.65	0.45	0.25	0.5	0.35	0.2
	III	0.7	0.7	0.7	0.6	0.5	0.35	0.45	0.35	0.25	0.35	0.3	0.2
	IV	0.7	0.7	0.7	0.35	0.35	0.35	0.25	0.25	0.25	0.2	0.2	0.2

2階Y方向合計 Pw	14.81
------------	-------

$Pw = Pwa + Pwb + Pwc$

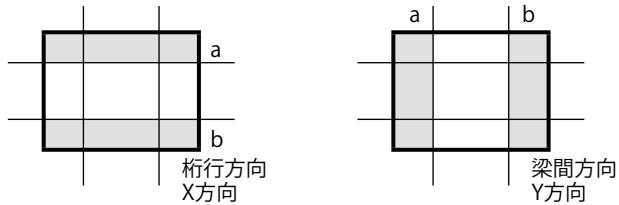
一般診断 現状

5. 耐力要素の配置等による低減係数

日付：2013年02月28日 14:21:20

建物コード：130103

床仕様	選択	仕様
	☐	I 合板
	☒	II 火打ち+荒板
	☐	III 火打ちなし



耐力要素の配置等による低減係数用必要耐力

階	方向	位置	① 床面積 (m ²)	② 床面積あたりの必要耐力 (kN/m ²)	③ 積雪用必要耐力 (kN/m ²)	④ 地震地域係数 Z	⑤ 軟弱地盤割増	⑥ 形状割増	⑦ 混構造割増	必要耐力 Qr
2	X	桁行a	11.60	0.53	0.00	0.9	1.0	1.00	1.0	5.54
		桁行b	13.05	0.53						6.23
	Y	梁間a	10.57	0.53						5.05
		梁間b	13.05	0.53						6.23
1	X	桁行a	12.30	0.89	0.00	0.9	1.0	1.00	1.0	9.86
		桁行b	13.67	0.89						10.95
	Y	梁間a	13.67	0.89						10.95
		梁間b	13.05	0.89						10.46

保有耐力&充足率&低減係数 (E)

階	方向	位置	必要耐力 Qr	保有耐力			充足率 P/Qr	配置による 低減係数 E
				壁の耐力 Pw	その他の耐力 Pe	保有耐力 P		
2	X	桁行a	5.54	3.95	1.38	5.33	0.96	1.00
		桁行b	6.23	6.06	1.55	7.61	1.22	1.00
	Y	梁間a	5.05	4.16	1.26	5.42	1.07	1.00
		梁間b	6.23	5.34	1.55	6.89	1.10	1.00
1	X	桁行a	9.86	11.67	2.46	14.13	1.43	1.00
		桁行b	10.95	5.08	2.73	7.81	0.71	1.00
	Y	梁間a	10.95	6.05	2.73	8.78	0.80	1.00
		梁間b	10.46	13.02	2.61	15.63	1.49	1.00

参考) 耐力要素の配置等による低減係数 (4分割法における充足率)

X方向 4/4	X方向 1/4 床仕様	0.00~0.32	0.33~0.65	0.66~0.99	1.00~
0.00~0.32	I	1.00	0.70	0.60	0.60
	II	1.00	0.50	0.45	0.45
	III	1.00	0.30	0.30	0.30
0.33~0.65	I	0.70	1.00	0.80	0.75
	II	0.50	1.00	0.80	0.75
	III	0.30	1.00	0.75	0.75
0.66~0.99	I	0.60	0.80	1.00	1.00
	II	0.45	0.80	1.00	1.00
	III	0.30	0.75	1.00	1.00
1.00~	I	0.60	0.75	1.00	1.00
	II	0.45	0.75	1.00	1.00
	III	0.30	0.75	1.00	1.00

ただし、表において

床仕様	診断項目	床倍率
I	合板	1.00
II	火打ち+荒板	0.63
III	火打ちなし	0.39

4m以上の吹き抜けがある場合には、
床仕様を1段階下げる

一般診断
現状

6. 劣化度による低減係数

日付：2013年02月28日 14:21:20
建物コード：130103

部位	材料、部材等	劣化事象	存在点数		劣化点数		
			築10年未満	築10年以上	部位なし	劣化あり	劣化なし
屋根葺き材	金属板	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれがある	2	②	-	2	①
	瓦・スレート	割れ、欠け、ずれ、欠落がある					
樋	軒・呼び樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2	②	-	②	0
	縦樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある	2	②	-	②	0
外壁 仕上げ	木製板・合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある	4	④	-	④	0
	窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある					
	金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある					
	モルタル	こけ、0.3mm以上の亀裂、剥落がある					
露出した躯体		水浸み痕、こけ、腐朽、蟻道、蟻害がある	2	②	-	2	①
バルコニー	手すり壁	木製板、合板	/	①	-	1	①
		窯業系サイディング					
		金属サイディング					
	外部との接合部	外壁面との接合部に亀裂、隙間、緩み、シール切れ・剥離がある	/	①	-	1	①
床排水		壁面を伝って流れている、または排水の仕組みが無い	/	①	-	1	①
内 壁	一般室	内壁、窓下	2	②	-	2	①
	浴室	タイル壁	2	②	-	②	0
		タイル以外					
床	床面	一般室	2	②	-	2	①
		廊下	/	①	-	1	①
	床下	基礎の亀裂や床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がある	2	②	-	②	0
合計			24		12		

劣化度による低減係数 D

1- (劣化点数/存在点数) =

0.70

注) 低減係数が0.7以上となった場合はその数値を、0.7未満の場合は、0.7とします。

※劣化の種類について

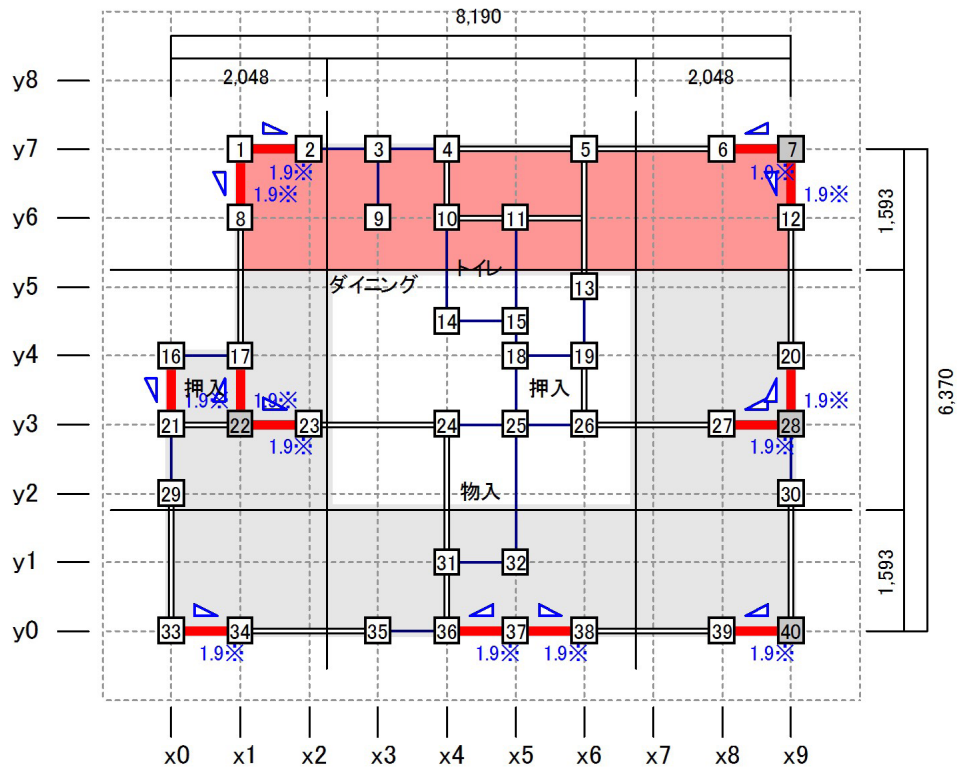
築10年未満の住宅で起きている劣化現象は、建築時の不具合による可能性が極めて高いと言えます。そのような不具合による劣化が関係するのは、上記表の「/」以外の部位にあたります。築10年以上の住宅では、時間の経過による自然な劣化がおきてきます。このような自然の劣化には、上のすべての項目が関係してきます。ただし、築10年未満の住宅であっても、「/」以外の部位に劣化が発見された場合は、築10年以上の住宅と同様に、すべての項目について調査を行います。

一般診断
現状

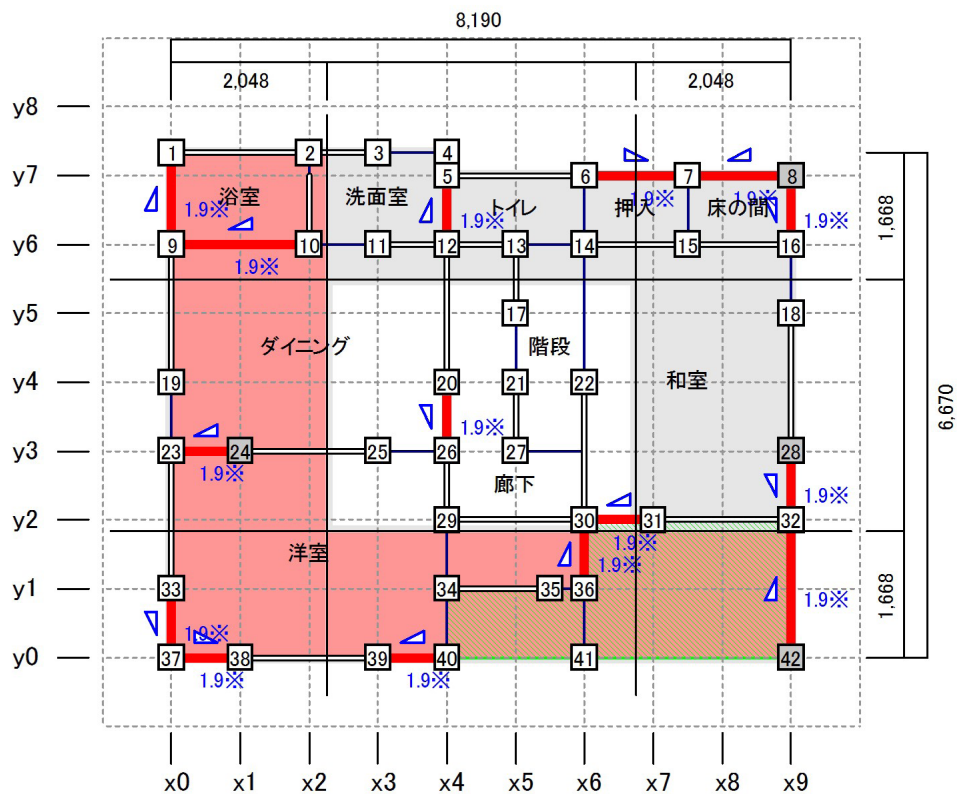
一般診断平面図

日付:2013年02月28日 14:21:20
建物コード:130103

2階



1階



縮尺 1/100

凡例

- 一般壁
- 開口部
- 耐力壁
- バルコニー
- 小屋裏収納等
- オーバハング
- 柱
- 通し柱
- 1/4範囲
- 1/4範囲(充足率1.0未満)
- 筋かいシングル
- 筋かいダブル
- 面材耐力壁
- 部分入力雑壁
- 柱接合部 I, II
- 筋かい接合部 I, II

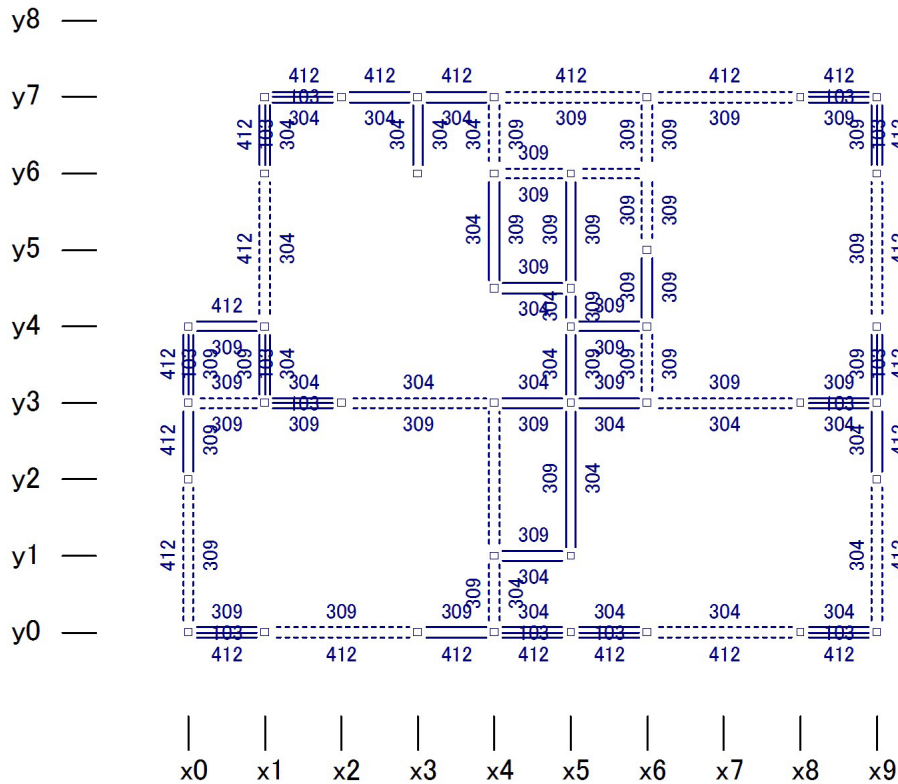
※基準耐力に※付きの筋かい: 接合部が金物無しのため基準耐力が低減されている

一般診断
現状

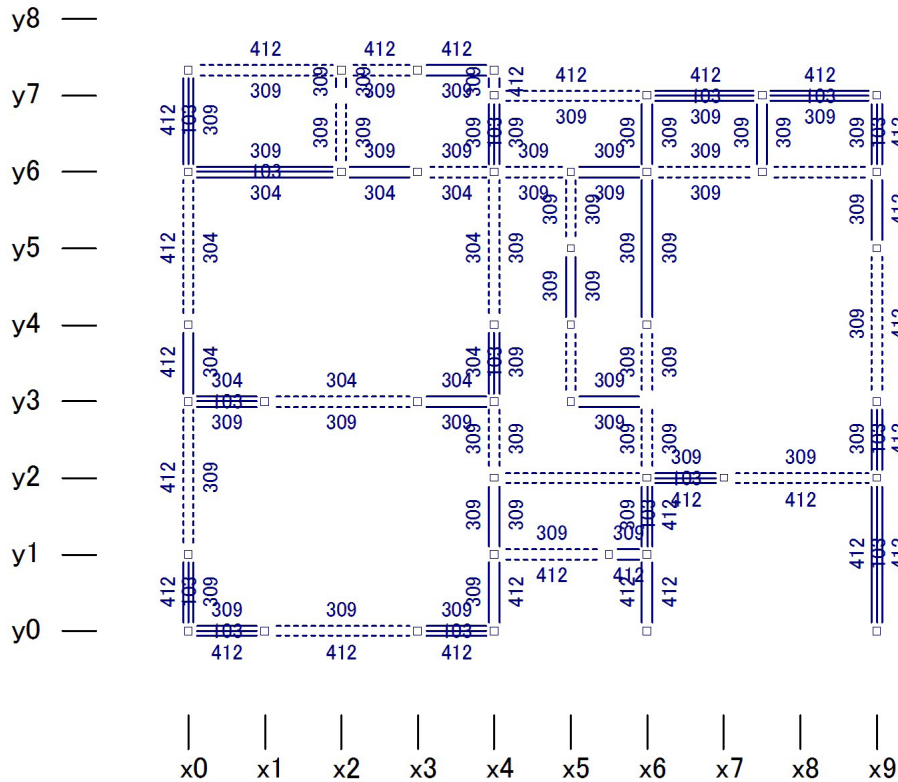
一般診断平面図(壁材種表示)

日付: 2013年02月28日 14:21:20
建物コード: 130103

2階



1階



縮尺 1/90

凡例 無開口壁(面1、軸組、面2)

開口壁(面1、軸組、面2)

柱

壁材種コード 103: 筋かい(30×90)

304: 石膏ボード(非-大壁)

309: 耐力無

412: モルタル塗壁

一般診断
現状

ホームズ君の絵でみる 総合診断書

日付：2013年02月28日 14:21:20
建物コード：130103
竣工年月：1977年11月（築35年）

現状
0.54

$$\text{上部構造 評点} = \frac{\text{保有耐力}}{\text{必要耐力}}$$

階	方向	配置 低減係数	劣化 低減係数	保有耐力 (kN)	必要耐力 (kN)	上部構造 評点	
2	X	1.00	0.70	14.82	23.71	×	0.62
	Y	1.00		14.51		×	0.61
1	X	1.00		23.30	42.67	×	0.54
	Y	1.00		28.00		×	0.65

上部構造評点	判定内容	
1.5以上	倒壊しない	◎
1.0以上1.5未満	一応倒壊しない	○
0.7以上1.0未満	倒壊する可能性がある	△
0.7未満	倒壊する可能性が高い	×

現状

必要耐力 (Qr) 必要耐力 計算方法 ~~略算法~~ 精算法

階	床面積(㎡)	必要耐力係数	多雪区域加算	地震係数Z	軟弱地盤割増	形状割増	混構造割増	必要耐力Qr(kN)
2	49.69	0.53	0.00	0.90	1.00	1.00	1.00	23.71
1	53.26	0.89				1.00	1.00	42.67

☐ 軽い建物
☒ 重い建物
☐ 非常に重い建物

☒ 一般(0.00)
☐ 多雪地域 (0.26～0.52)

☒ その他 (0.7～0.9)
☐ 一般地域 (1.0)

☒ 通常(1.00)
☐ 割増(1.50)

形状割増 (1.15,1.30)

1F 2F
☐ ☐

☒ 木造(1.00)
☐ RCまたは鉄骨 (1.20)

保有耐力 (Pd) 配置低減 計算方法 4分割法 ~~偏心率~~

階	方向	無開口壁耐力 (kN)	その他の耐震要素の耐力(kN)	耐力要素の配置・床仕様による低減係数	劣化度による低減係数	保有耐力 Pd (kN)
2	X	15.26	5.92	1.00	0.70	14.82
	Y	14.81		1.00		14.51
1	X	22.63	10.66	1.00		23.30
	Y	29.35		1.00		28.00

☐ 柱頭柱脚 接合部仕様
☐ 接合部Ⅰ
☐ 接合部Ⅱ
☒ 接合部Ⅲ・Ⅳ

☐ 基礎Ⅰ
☒ 基礎Ⅱ
☐ 基礎Ⅲ

☐ Ⅰ 合板
☒ Ⅱ 火打ち+荒板
☐ Ⅲ 火打ちなし

配置低減係数	1階 X方向	1階 Y方向	2階 X方向	2階 Y方向
1.00	☒	☒	☒	☒
0.75～0.99	☐	☐	☐	☐
0.50～0.74	☐	☐	☐	☐
～0.49	☐	☐	☐	☐

☐ 1.00 劣化なし
☐ 0.9～1.0
☐ 0.8～0.9
☒ 0.7～0.8

接合部Ⅰ	接合部Ⅱ	接合部Ⅲ・Ⅳ	基礎Ⅰ	基礎Ⅱ	基礎Ⅲ
					その他の基礎

補強・改修をすると評点があがります。

評点分析

